

11月の植物

ブゼンノギク (キク科)

学名 : *Aster hispidus* Thunb. var. *koidzumianus* (Kitam.) Okuyama

嬉野市の観察会でのこと。晩秋の山道を歩くと左手の岩崖に野菊が垂れ下がっていた。細い茎に薄青色の花をたくさんつけていた。故貞松会長に尋ねるとブゼンノギクと教えていただいた。この時期、私が目にする青い花をつける野菊はヨメナ、ノコンギクと天山山頂の僅かなヤマジノギクぐらいだったのでとても印象に残った。図鑑で調べてみるとブゼンの名の通り大分県に産すると有り、基本種のある耶馬溪へ数回足を運んだ。古羅漢（羅漢寺）の岩山にブゼンノギクを沢山見ることができた。佐賀県では嬉野市のほかに黒髪山などにもわずかに産するとあるが、佐賀県のものはずかには毛がありブゼンノギクではないとされている。顕微鏡で覗いてみると確かに葉縁に微毛を確認することができた。最近の研究では佐賀県のものもブゼンノギクとされているようである。

ブゼンノギクは九州北部の山地の日当たりのよい岩場や崖地に稀に生える越年草で、ヤマジノギクの亜種とされ、茎は高さ 0.6~1.5m になり、よく分枝し、全体に毛はない、茎の下部の葉は花期には枯れ、中部の葉はさじ状線形で長さ 5-7.5cm になり、鈍頭で基部は次第に狭くなり無柄。花は 10 月枝に頂生し、径 3.5-4cm で舌状花は淡い紫色、筒状花は黄色。総苞は皿状で、総苞片は 2 列する。瘦果は長さ 2.5~3mm の扁平な倒卵形で、筒状花の冠毛は長さ 3~4mm ほどで赤褐色を帯びる。

(文責 井手義信)



2022.10.28 嬉野市 (杵内は有田町 2022.10.25)

参考文献 佐賀県植物目録 1981, 日本の野生植物Ⅲ, 日本の野菊